

研究科ホームページの研究者総覧：新井 美佐子 (ARAI, Misako)

氏名	新井 美佐子 (ARAI, Misako)
職名	准教授
所属講座	国際多元文化専攻ジェンダー論講座
学位 (専攻分野)	博士 (経済学)・名古屋大学
メールアドレス	<a href="mailto:arai@lang.nagoya-u.ac.jp">arai@lang.nagoya-u.ac.jp</a>
個人のホームページ	<a href="http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff/arai.html">http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff/arai.html</a>
研究分野	理論制度経済学 ジェンダー
現在の研究テーマ	ジェンダー関連理論／政策
所属学会	経済理論学会 社会政策学会 日本フェミニスト経済学会
主要著書・論文	<p>新井美佐子 (2010) 『ワーク・ライフ・バランス』 社会実現の可能性」財団法人東海ジェンダー研究所記念論集編集委員会編『越境するジェンダー研究』 明石書店、pp.62-75.</p> <p>ARAI Misako/LECHEVALIER Sébastien (2005) “ L’inégalité homme/femme au coeur de la segmentation du marché du travail japonais ? Une prise en compte du genre dans l’analyse du rapport salarial toyotiste”, <i>Le Mouvement Social</i>, no.210, janvier-mars, pp.121-152.</p> <p>新井美佐子 (2004) 「経済学とジェンダー」 松本伊瑛子/金井篤子編『ジェンダーを科学する』 ナカニシヤ出版、第 10 章、pp.236-251.</p> <p>新井美佐子 (2002) 『賃労働関係』 のジェンダー的展開——女性労働研究の一視角』 『ジェンダー研究』 財団法人東海ジェンダー研究所、第 5 号、pp.49-62.</p> <p>新井美佐子 (2002) 「女性労働と労働力の再生産過程——『単一的ジェンダーの多元的様態』の視角から」 2001 年度名古屋大学博士 (経済学) 学位論文.</p>
自己紹介文	<p>私たちの日常生活——モノやサービスの生産や消費、売買 (交換) ——には、ジェンダーの視点から見ると多くの問題が付随しています。そうした経済事象に顕在・潜在するジェンダーについて、理論と実証 (計量分析ではありません) 両面からの検討を試みています。</p> <p>修士論文では非主流派経済学による労働市場分断論を、博士論文では経済諸理論やジェンダー・アプローチにおける性別労働条件格差の要因分析を、それぞれ取り上げました。これらを執筆していた頃から、</p>

	<p>ジェンダーという語が広く知れ渡るようになり、それに関する研究も国内外で急速に進展したように思います。こうした進展は、学問上に留まらず、社会的にも様々に寄与したのではないのでしょうか。</p> <p>ジェンダー研究に際しては、「女性視点」に偏ることなく、しかしそれを軽視しない（女性であるがゆえに持ちうるであろう問題意識などを大切にする）ように、つまり「本家」とは多少意味が違いかもかもしれませんが、“cool head, but warm heart”でありたいと心掛けています。</p>		<p>国際シンポジウム@南京師範大学（中国、'07.11）</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>ジェンダー研究は、女性（とりわけ「働く」女性）のみの利益を追求するものではありません - 言うまでもないですが、念のため。誰もが（物心両面で）より豊かな生活を送るにはどうしたらいいか？を念頭に、一緒に学んでいきましょう。大学院生活は長いようで短く、また楽しいことばかりではないでしょう。研究環境に恵まれ、計画通りに研究が進み、論文執筆に集中できて、修了後は希望通りの進路に - 私自身や知人の経験からすると、（残念ながら）そううまくはいかないようです。自戒も込めて、時間を大切に&amp;前向きに！</p> <p>受験を考えている方には、毎年夏に開催される研究科オープンキャンパス（研究科 HP に案内が出ます）やメール等（随時）で相談に応じます（受験前のこうした相談あるいはコンタクトは必須ではありません）。何を研究したいのか、そのための素養は身につけているか（もしくは入学後身につけられるか）等、十分検討して下さい。</p>		<p>国際シンポジウム@名古屋大学（'08.12）</p>